

協同教育の組織的な取組

－ 大学における問題点と対応策を考える －

長田敬五（日本歯科大学新潟生命歯学部）

キーワード：協同学習、PBL、教育、ワークショップ、グループ学習

【はじめに】

ここでは、大学における協同教育の組織的な取組について考えてみたいと思います。一口に大学と言っても、大学組織や教育システムは実に多様であり、ここで話す事例がそれぞれの参加者にとって必ずしも参考になるとは限りません。そこで今回は、私の紹介事例をたたき台にして、参加者同士で意見交換をしながら各自が抱える問題点と対応策を皆様と一緒に考えていきたいと思います。

【日本歯科大学新潟生命歯学部の取組】

日本歯科大学新潟生命歯学部（本学）における協同教育は、これまで初年次の二三の授業で実施されてきましたが、決して組織的に取り組まれたものではありませんでした。しかし、昨年度末より協同教育への組織的な動きが活発になり（大学幹部の関心が高まり）、今年度始めには、大学行事の富士見・浜浦フェスタという第4学年合同ワークショップ（WS）に初めて協同学習を導入することができました（※本WSにおける協同学習の詳細は、今大会の実践報告で発表する予定です）。このような組織的な取組を可能にした背景として、PBL（Problem Based Learning）テュートリアル導入、教育フォーラム、カリキュラムプランニングWS、教員個々による協同教育の継続、および協同学習講演会の開催等の取組が挙げられるように思われます。

① PBL（Problem Based Learning）テュートリアル導入

具体的な事例から問題や疑問を見つけ出し、少人数のグループ討論を通して学生自身が必要な学習項目を抽出し、自己開発型学習の学びを習得させようとするものです。本学では、平成16年度から第3学年（翌平成17年度から第1学年）にPBLテュートリアルを導入しましたが、平成14年にPBLテュートリアル教育委員会を立ち上げて教員間での情報の共有に努め、それによってグループ学習や教育方法に関する教員の理解が深められてきたように思います。しかし、少子化の現在では教員数も減少傾向にあり、PBL担当教員不足が印象的な問題になっているのも確かです。

② 教育フォーラム

平成22年度から不定期で開催されてきましたが、このフォーラムでは、授業に関わる全ての教員が一堂に会し、毎回二三の教員による授業内容や教育方法等に関する話題提供と参加者を交えた意見交換が行われてきました。これは、本学教員の教育への意識改革に大いに寄与してきたように思います。

③ カリキュラムプランニングWS

本WSも不定期に実施されてきましたが、本学では、全ての教員がこのWSを修了しています。このWSは、歯学系大学を卒業した大多数の教員に対してカリキュラムの意味、教育方略および評価等に関する理解を深め、同時に教員のコミュニケーション能力を向上させてきたものと思われま

④ 教員個々による協同教育の継続

本学の学生に対する協同教育の有効性と必要性を認識した教員によって、協同学習を導入した授業が毎年継続して実施されてきました。この教員の取組は、組織的な取込に直接リンクするものではありませんが、協同学習を継続し、協同教育の原理を学生に広めれば、それが他の教員に伝搬し、延いては大学全体の協同教育の取組に繋がるものと思われま

⑤ 協同学習講演会の開催

昨年度、本学では協同教育の専門家による協同学習の講演会を開催しました。これは、上記の教員個人による協同学習の地道な継続や大学教育における協同学習の高い評判が大学役員（幹部）を動かし、この講演会の開催を導いたように思います。講演会によって多くの教員が協同学習を知り、それを体験することで、本学における協同学習の組織的な取組が一気に進んだものと思われま

【まとめ】

協同教育の組織的な取組を実現するためには、大学教員のグループ学習や教育そのものに対する理解を促し、協同教育の有効性や効率性が教員や大学関係者に認識され、大学（学部）全体で協同教育導入の機運が醸成されていくことが重要ではないかと思われま